

いにしへの宝庫・京田辺南部



『つつきはっけん講座&ウォーク』
第4回 H26.10. 9

普賢寺・多々羅・越前の主な歴史

年代・時代	出来事・場所	関連内容
1～4 C (世紀)	日本最初外国蚕飼育旧跡	奴理能美（ぬりのみ）、磐之媛
5 1 1	筒城宮伝承地（都谷）	継体天皇、筒城宮候補地
6 C	製鉄業、新宮社	爾利久牟（にりくむ）
8 C	観音寺、地祇神社	国宝十一面観音立像
1 2～1 3 C	近衛基通公御廟	御所の内、公家谷（こけだに）
1 5～1 6 C	中世城館跡	普賢寺地侍
1 5 8 2	家康 伊賀越え	本能寺の変、京田辺越え
1 8 C	伊藤若冲の屋敷跡（公家谷）	鶏の絵画、斗米庵
1 9～2 0 C	古民家（多々羅）、生駒翠山	大和棟、虎の絵師
弥生 後期	田辺天神山遺跡	高地性集落
	南山遺跡	土器・サヌカイト片
7 C 前半	下司古墳群、大御堂裏山古墳	横穴式石室（8基）
7 C 後半	新宗谷（しそがたに）窯跡	窯跡、須恵器
8 C 前半	マムシ谷窯跡（同大構内）	窯跡、須恵器
1 5～1 6 C	新宗谷遺跡	平坦面・土塁・空堀・井戸・通路

観音寺(かのんじ)

(京田辺市普賢寺下大門)



- 白鳳2年(673)、天武天皇の勅願で、義淵僧正が親山寺を開基。
天平16年(744)、聖武天皇の勅願で、良弁僧正が五重塔など伽藍を増築し、十一面観音立像を安置し、息長山(そくちょうざん)普賢教法寺と名を改める。
- 良弁の高弟、実忠和尚(じつちゅうかしょう)を第1世。東大寺二月堂建立、お水取りを始めた。
- 創建当初は「筒城大寺」と、七堂伽藍(塔・金堂・講堂・鐘楼・経蔵・僧坊・食堂)は壮観。
- 現存は、本堂、庫裏(くり)、鎮守の地祇神社で、西方丘陵上に塔の中心の礎石があり、奈良から平安初期の布目瓦が散在。※布目瓦とは、瓦を作るとき、瓦の型に粘土が張りつくのを防ぐために間に入れる布の跡が残ったもの。古代の瓦に多い。
- 松香石の石燈(平安後期、層塔の軸部二石のみ、凝灰岩)、鬼瓦(江戸時代)。

国宝十一面観音立像

(京田辺市普賢寺下大門)



- 国宝十一面観音像七体の一つ、京田辺市唯一の国宝。木心乾漆造。172.7cm、制作年代、仕様とも奈良聖林寺の十一面観音と共通。
- 十一面の内訳は、
 - ・正面三面 慈悲面 (教えに従う者を慈悲の顔で見守る)
 - ・右側三面 憤怒面 → 眉を吊り上げ口をへの字に結んで怒る (教えを守らぬ者を叱り悪を除去)
(向かって)
 - ・左側三面 狗牙上出面 → 結んだ唇の間から牙を上に向けて出す (クゲジョウシュツメン) (善行を誉める)
 - ・後部一面 暴悪大笑面 → 大口を開けて笑う(悪行を快笑教化)
 - ・頂上仏面 (仏道を求める者に最上の道を説く)



近衛基通公御廟

(京田辺市普賢寺 ちきんはうす前)

- 鎌倉時代初期の公卿、父が近衛家の始祖。藤原家の直系。
- 平安末期～鎌倉時代前期、平清盛、後白河天皇、後鳥羽天皇らにより摂政・関白に任じられて政治を行う。継母が平清盛の娘(盛子)、20歳で内大臣関白。清盛の孫安徳天皇の即位で摂政。平家の都落ちにより、義仲から摂政を免じられる。その後、義仲の敗死で、摂政の復活等、何度も摂政・関白に任じられたり解任を繰り返す。
- 建仁2(1202)年に政界から退き、行理と号して仏門に入る。
- 1222年、普賢寺上村御所ノ内に隠棲、移り住む。
- 1233年、74歳、この地で亡くなり法楽山(元中ノ山)で火葬。
- 普賢寺関白ともいわれ、観音寺伽藍を復興。白山神社は、鎮守社。



伊藤若冲屋敷跡

(京田辺市普賢寺公家谷)

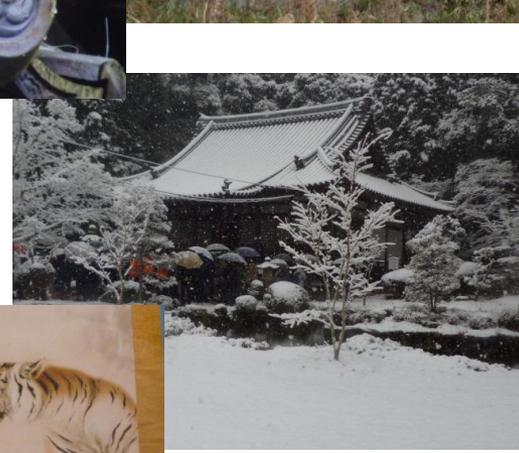
- 江戸中期の絵師。(1716～1800)
- 京都錦小路の青物問屋『枅源』の長男として生まれ、4代目継ぐ。
- 20歳後半から家業の傍ら、絵を描き始める。40歳で弟に家業を譲る。
- 最初は、狩野派、次に中国絵画の模写、実物(鶏をはじめとする動物や植物)を写生、独自の世界を構築(墨絵、障壁画)。『動植綵絵』
- 生涯独身、酒も飲まずに、人付き合いが苦手、書も苦手、無趣味、無芸。
- 一時期、公家谷に住んだとのこと。よれよれの帯、ひげぼうぼうの風貌。米一斗で絵画と交換したので、「斗米庵(とべいあん)」と号した。
- 普賢寺の二家で保存されていたが、...
- 晩年は、深草の石峰寺の門前に住み、自然石に五百羅漢像を刻む。



田宮の館

(京田辺市普賢寺)

- 掘り: 最大幅5m、深さ1m、延長100m、2000m²の館
- 武者窓、白塗りの高い塀、石垣、鉄の金具、武家門が郭構え
300年前の屋敷
- 田宮氏先祖: 元弘3年(1331)南北朝時代、大和国葛下郡(かつらぎのしものこおり)、
万財新三郎友盛が、後醍醐天皇の笠置山拳兵で活躍、宝剣を賜る
- 戦国時代に普賢寺に移住、田宮姓に。楠正成木造。
- 明治2年新政府高官、横井小楠暗殺の刺客5人を匿う。



多々羅(たたら)

(京田辺市多々羅)



- 場所：普賢寺川中・下流域。
- この辺りには養蚕を生業とする百済からの渡来人、奴理能美(ぬりのみ)が住んでいた。
- 558年 欽明天皇(継体第4皇子)の代に、百済の渡来人爾利久牟(にりくむ)王が住む。鉄工業を伝え、金多々利(糸車)・金平居(麻を入れるおけ)を献じ、多々良公の姓を賜る。
- 新宮社の祭神は、かつては、多々良公の祖先の余璋王。
「古事記」仁徳天皇の段に筒木の韓人、奴理能美が当地に登場。
- ・下司古墳群(7世紀前半、横穴式石室) ・新宗谷(しそがたに)遺跡、城館跡(室町時代)
- たたらとは、製鉄方法：砂鉄と木炭を交互に入れふいごで火をおこし、鉄を取り出す。
羅：絡み織の一種で網目のように織られた薄地の絹織物

日本最初外国蚕飼育旧跡

(京田辺市多々羅西平川原)

- この碑は、昭和3年京都の篤志家(三宅安兵衛)により建立。
- 養蚕は、殷(3000年前)で始まり、1~2Cに朝鮮から伝わる。西暦100年前後、百済の渡来人の奴理能美(ぬりのみ)が住み養蚕と絹生産を営む。
- 「古事記」の仁徳天皇の条には、仁徳天皇の皇后・磐之媛(いわのひめ)が、この地に住む奴理能美の邸宅を宮室として居住し、“一度は這う虫になり、一度は殻になり、一度は飛ぶ鳥になって、三色に変わる”という珍しい虫(蚕)を見たとの記述。
- 外国から蚕が持ち込まれ初めて飼われたのが、筒城の地であり、多々羅であると考えられ、玄関先には機部屋があったという。



新宮社(しんぐうしゃ)

(京田辺市多々羅新宮前)

- この地は欽明天皇の時代(6C)、わが国に来朝した百済国人爾利久牟(にりくむ)王が住居した所。
この人は鉄工の技術を伝え、朝廷より多々良の姓を賜う。
- 当社はその子孫のものが祖神と仰ぐ百済国余璋王を祭神として祀った氏神社(うじがみしゃ)。
当時渡来人がこの地に多く住んでいたことが察せられる。
- 今は素盞鳴命(すさのうのみこと)が祭神、朱智神社の境外末社。
もとの鎮座地は田中山にあり、田中山宮と称した。



新宗谷遺跡・中世城館跡

(京田辺市多々羅都谷)

- 同志社校地の南側、普賢寺谷に面した丘陵一帯。
自然地形を巧みに利用し15~16世紀の在地土豪の居館跡が点在。
- 掘立柱建物や柵列・溝・門などの跡。土塁下から小銅鏡、陶磁器類が出土。
- 1467年応仁の乱、1485年「南山城の国一揆」。
山城の政治社会的動揺により、普賢寺川流域に様々な防御施設。
- 15世紀「普賢寺衆」とよばれた地侍が小規模な城館を構える。
惣氏神の朱智神社や惣氏寺の普賢寺を中心とした結束。
- 永禄8年(1565)、三好党の兵乱により普賢寺は炎上。永禄11年に織田信長が入京し、畿内は1か月で平定されたが、普賢寺衆は抵抗。翌年信長により彼らの多くは切腹を命ぜられる。16世紀後半の信長による普賢寺谷壊滅的な打撃。

下司古墳群(げし)

(京田辺市多々羅都谷)



- 7世紀前半、古墳時代の末期に築造
普賢寺谷を臨む丘陵南斜面に築造された8基からなる群集墳。
- 埋葬施設は全て南側に開口した横穴式石室で、直径10m前後の墳丘を築造し周囲は堀。
- 古墳群中、最大古墳は1号墳:石室全長8.55m・玄室長3.55m・奥壁幅2.05m・高さ2.1m、陶棺片・金銅製鋌等が出土。7C前半、陶棺に被葬者を納め、後半木棺で被葬者を追葬。
- 各古墳から須恵器、土師器、杯、瓦器の椀が副葬品として出土。
- 西側尾根に同時期に築かれた大御堂裏山古墳。墳丘は全て失われ石室も半壊状態。埋葬施設は南に開口、下司古墳群と連動して築造
- 埋葬された人物は、同一氏族で、朝廷を構成する一員で氏寺を建立する契機となり、7世紀後半には、南西約500mの地点に筒城寺(現在の観音寺)を建立。



田辺天神山遺跡(てんじんやま)

(京田辺市三山木天神山)

- 標高80mの丘陵地の南北90m、東西60mの平坦地に位置し、弥生時代後期の南山城地域における高地性集落の代表例。
- 20軒以上の竪穴住居跡。平野から離れた不便な場所にあり、砦のような機能あり。住居は円形から方形へ、出土した生活用品などの素材も石から金属に、弥生時代後期の社会変化。



越前(こしまえ)

(京田辺市三山木越前、大南山)

- 養蚕を生業とする百済からの渡来人の奴理能美(ぬりのみ)の豪族が住んだ所。
- 地名は、継体天皇の母の出身地の越前(えちぜん)からとのこと。
- すぐ南にある大南山(おおみの山、別名なんばはん)には、禁足地(磐之媛の住居地)があったといわれている。
- 磐之媛は葛城地方の大豪族の娘で仁徳天皇に愛されたが、天皇が新たに八田皇女を妃に迎えようとしているのを知って怒り難波宮から山城筒城宮に移り住んで、天皇のいさめも聞き入れずにそのまま仁徳35年(347)になくなったといわれている。



南山遺跡(みなみやまいせき)

(京田辺市三山木越前)

- 2009. 4. 15 京田辺市教委発表
約2000年前の地層から方形の竪穴式住居跡10棟が見つかる。
- 住居跡は、大きいものは縦6・3m、横5m、小さいものは縦3m、横2. 5m。
- 同時代の住居跡は円形が主で方形の住居が中心の集落は珍しい。
- 少し古い地層からは円形の住居跡3個、鉄製の斧や石包丁、壺、高杯、鉢など多数の土器類が見つかる。
- 出土した土器類から紀元前4世紀から1世紀ごろの弥生時代中後期の集落跡。



南山城跡(みなみやましろあと)

(京田辺市三山木南山)

- 浅井光政の築城と伝えられているが、平成2年の発掘調査により、16C後半の遺物で浅井氏以前の城館とわかった。
- 100m四方の土塁、堀の大きさから、筒城宮跡の候補地ともいわれている。



鉾立ての松、杉、不違の池(たがわす)

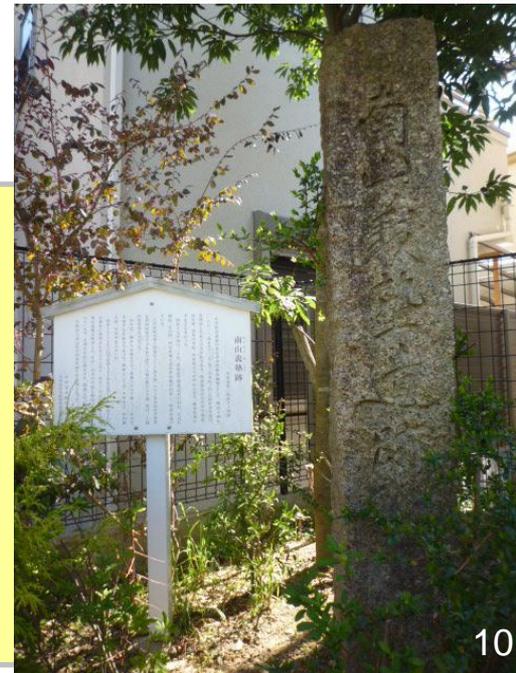
(京田辺市興戸)

- 神功皇后の戦隊の先頭:「鉾立ての杉」、最後:「鉾立ての松」「杉」と「松」との間に「不違の池」がある。

南山義塾(なんざんぎじゅく)

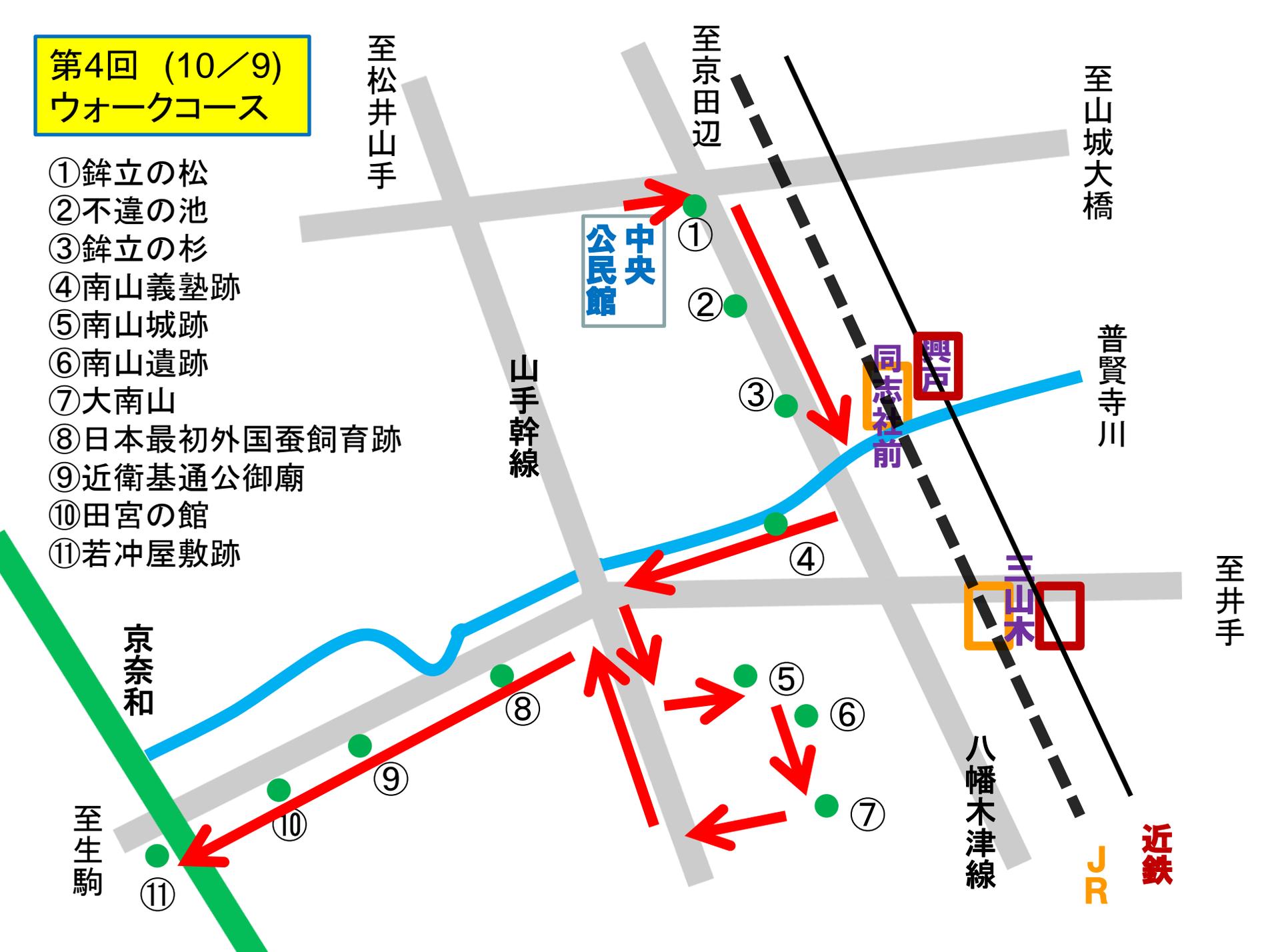
(京田辺市三山木下ノ河原)

- 明治10年(1877):「壺簪(こうしん)家塾」が 棚倉孫神社境内の宮寺松寿院を校舎として開設(漢文、歴史)
- 壺簪(こうしん)家塾が発展し、
明治14年:三山木二又「南山義塾」(仮校舎) 開校
大住「愛民義塾」 開校
- 京都府内4校の私塾(中等学校)のうち2校が京田辺
- 明治15年4月30日:『南山義塾』新校舎高木で開講式、新島襄も祝辞



第4回 (10/9)
ウォークコース

- ① 鉾立の松
- ② 不違の池
- ③ 鉾立の杉
- ④ 南山義塾跡
- ⑤ 南山城跡
- ⑥ 南山遺跡
- ⑦ 大南山
- ⑧ 日本最初外国蚕飼育跡
- ⑨ 近衛基通公御廟
- ⑩ 田宮の館
- ⑪ 若冲屋敷跡



第5回 「つつきはっけん」のご案内

12月12日(金) 10時 京田辺市立社会福祉センター

●歴史講座 10:00~11:30 『京田辺こそ、かぐや姫の里』

- ・竹取物語のあらすじ
- ・京田辺がモデルといえる検証
- ・かぐや姫の罪と罰、自論とジブリ論
- ・質疑応答
- ・1年間のまとめ、アンケート

●魅力発見ウォーク 13:00~16:00

社会福祉センター～飯岡古墳群～咋岡神社～トヅカ古墳
～大神宮跡～鶴沢の池～山崎神社～帰り

第3回 「継体天皇と筒城宮」ウォークのご案内

11月14日(金) 10~12時 JR同志社前広場 10時集合

JR同志社前～田辺天神山遺跡～筒城宮址～
マムシ谷窯跡～下司古墳群～歴史資料館